

## 臨床研究に関する情報公開（オプトアウト）

この研究は、患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成 26 年文部科学省・厚生労働省告示第 3 号）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名] 垂直破折歯根の接着治療後の予後におよぼす因子の解析

[研究機関名・長の氏名] 徳島大学大学院社会産業理工学研究部理工学域長 武藤 裕則

[研究責任者名・所属]

徳島大学大学院社会産業理工学研究部 理工学域 准教授 榎本 崇宏

[研究代表機関名・研究代表者名・所属]

北海道大学病院 菅谷 勉 歯周・歯内療法科 教授

[共同研究機関名・研究責任者名]

菅谷 勉 北海道大学病院 歯周・歯内療法科 教授

[研究の目的]

歯根が垂直に破折した歯に対して接着による治療を行なった歯を対象とし、検査結果およびエックス線写真、治療方法、治療成績を調査して、治療成績にどのような要因が影響をおよぼすかを人工知能で解析し、術前の検査結果から適切な治療方法の選択や予後の予測を可能とすること。

[研究の方法]

1995 年 4 月 1 日から 2020 年 5 月 31 日までの間に、北海道大学病院歯周・歯内療法科で診断・治療を受けている垂直歯根破折の患者データの解析を行う。

○利用するカルテ情報

カルテ情報：

- ① 背景情報：年齢、性別、診断名、既往歴、現病歴
- ② 臨床検査結果：歯式、欠損補綴状態、被験歯名、被験歯根名、自発痛、歯肉の腫脹、歯肉の圧痛、打診痛、瘻孔、プロービングデプス（ポケットプローブで計測した歯肉辺縁からポケット底部までの距離）、プロービング時の出血と排膿、動揺度、破折の位置と長さ、破折部の分離状態
- ③ デンタルエックス線写真検査結果：歯根の長さ太さ、ポストの長さ太さ、根管充填材の最根尖側端と根尖との距離、骨欠損の位置、骨欠損の大きさ
- ④ 治療内容：破折間隙の清掃と封鎖方法、築造方法、フェルール（歯肉縁上の歯質）、歯冠補綴方法、咬合状態
- ⑤ 術後の臨床検査結果：経過日数、プロービングデプス、プロービング時の出血

と排膿、歯肉の腫脹の有無、瘻孔、動揺度、咬合痛、リコール状況  
⑥ 術後のデンタルエックス線写真検査結果：骨欠損の位置、骨欠損の大きさ

上記のカルテ情報は、人工知能による予後判定モデルを構築するために、徳島大学にて解析が行われます。

[研究実施期間]

実施許可日～2023年12月31日

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。データの転送、管理及び保管につきましては、個人情報保護のもと厳重に行います。

また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

\* 上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道札幌市北 13 条西 7 丁目  
北海道大学病院 歯周・歯内療法科  
担当医師 菅谷 勉  
電話 011-706-4266

徳島県徳島市南常三島町 2-1  
徳島大学大学院社会産業理工学研究部 理工学域  
榎本 崇宏  
電話 088-656-7476